

「信頼・連携・一体感」今こそ力を合わせて

県教育庁義務教育課
生徒指導推進室長

大 重 義 法



あれからもう二十年になる。当時、私は笠岡市の中学校で教員として奮闘していた。生徒指導困難校であったが、若手教員を中心に、学校をよくしていくための熱い議論を毎日のように交わしていた。ある日、同じ学年を担当していた〇教諭から「シゲちゃん、一緒に作戦を練ろうやあ」と言われ、二人でノートを広げて様々な対策を練った。「でも、何か足らんよなあ」…。そこで考えついたのが警察との連携。二人とも生徒指導担当ではなかったが、早速、管理職にこれを提案したところ、教頭先生が我々を笠岡警察署まで連れて行ってくれた。当時は、学校の抱え込みが指摘されていた時代だったが、学校と警察との連携が動き始めた実感した。

その後、私は行政へと異動となり、市教委では、警察や児童相談所、保健福祉部局等との行動連携事業、子どもの障害特性や複雑な背景等に対して、就学前から関係機関等がチームでサポートする四歳児発達支援事業、県教委では、スクールソーシャルワーカーの事業拡大や登校支援員の配置、スマホ・ネット問題総合対策など、多くの重要な事業等の実

現に関わらせていただいた。

これらの実現に欠かせなかったのが、課室や部局、機関等、組織を越えた連携。それ以上で重要だったのが、「やろうよ！」という声かけのもと、各組織のキーになる人たちとの信頼関係をベースに、一体感をもって取組が進められたことだ。前向きなアイデアもどんどん出され、課題にぶち当たっても、自然と「どうしたらこのハードルが乗り越えられるだろうか」という議論になる。それだけに実現できたときの充実感は大い。

学力向上や問題行動、長期欠席・不登校等、岡山県の教育課題は依然として大きく、学校や家庭・地域、行政や関係機関も懸命の努力をしているが、期待どおりの成果には至っていない。しかし、その課題の向こうには困っている一人一人の子どもたちがいる。こうした子どもたちが、生きがいややりがいを感じながら活躍できるようにしていくためには、それに関わる全ての人たちが組織を越えて心をつなげ、今こそ力を合わせて取組を進めていかなければならない。岡山県の教育の明るい未来は、その先にあると思う。